

2. 指標設定

成果指標	指標名	研修生の確保		目標年度	指標の設定理由			
	数値	6人			毎年研修生を3組6名受入、2年間の研修後に市内に就農させるため			
活動指標	指標	a	就農相談会の参加	b	c		d	
	数値	目標	5回	目標	目標		目標	

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
研修生の確保	人	6.0 人	8.0 人	6.0 人
		100.0 %	133.3 %	100.0 %

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 就農相談会の参加	回	5 回 100.0 %	5 回 100.0 %	5 回 100.0 %
b		-	-	-
c		-	-	-
d		-	-	-

4. 課題と対応

課題
今後とも市外からの新規就農者の住居と農地の確保は、大きな課題となっているので施策を検討する。
対応（改善点等）
インキュベーションファーム事業に取り組み、毎年3組の研修生を確保し、この制度を起爆剤に豊後大野市の豊かな大地、水、気候を最大の財産として生かして、農業の振興を図る。

5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

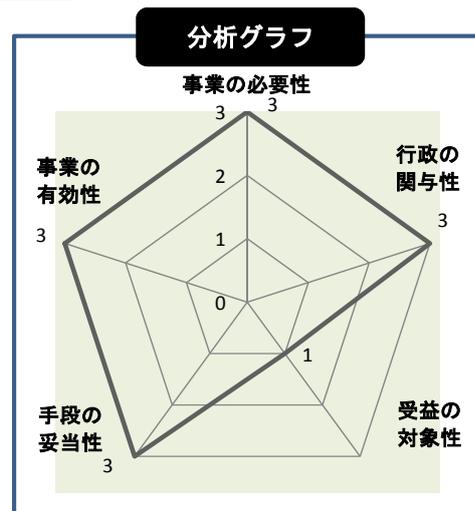
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
うち経常経費		26,477	11,625	12,141	11,787
財源内訳	国費				
	県費	9,415	1,570		
	市債				
	その他	113	560	910	1,060
	一般財源	16,949	9,495	11,231	10,727
うち経常					
事業費に係る人件費		5,160	4,294	4,359	4,436
事業費に係る人役		1.20	1.00	1.00	1.00

6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
インキュベーションファーム建設事業は、H23、24年度で終了した。H25年度以降は、新たな研修生の確保及び農地・住居対策となるから。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 第2次振興計画の担い手確保対策の重点施策として実行しなければならない。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 第3次振興計画の担い手確保対策の重点施策として行政が実行する。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1 研修生が毎年3組6名に限る。けれど市農政の起爆剤とする。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 第2次振興計画の担い手確保対策の重点施策として実行しなければならない。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 4組8名の研修生が確保できた。



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	事業を検証し、新規就農者の確保に努めること。